

常葉大学付属菊川高等学校  
女子ソフトボール部が、昨年  
10月から11月にかけて行われ  
た「第55回静岡県高等学校男  
子・女子新人ソフトボール大  
会」で準優勝し、3月に開か  
れた「第67回全国私立高等学  
校女子ソフトボール選抜大会」  
に出場した。同校3年の下村  
伊緒里さん（下岬区）は、チー  
ムの一員として同校の県大会  
準優勝に大きく貢献した。

野球をやっていた父・拓馬  
さんの影響で、野球の試合を  
見ることが好きだったという  
伊緒里さん。中学生になり、  
「自分もやってみたい」とソ  
フトボール部へ入部した。初  
めは「ルールを覚えることが  
大変だった」というが、すぐ  
にソフトボールの楽しさに夢  
中になり、中学3年時には副  
主将を務めた。高校を決める  
際も常葉大菊川高校ソフト  
ボール部の試合や練習を見て  
「ここでソフトボールをや  
りたい」と同校への進学を決意  
したという。

伊緒里さんは毎朝6時に家  
を出発し、朝練に向かう。放  
課後の部活が終わり、帰宅す  
るのは20時ごろ。家ではご飯  
を食べて寝るだけのハードな  
生活だが、「仲間とソフトボー



Pick Up Dreamer

常葉大学付属菊川高等学校 3年

# 下村伊緒里

Iori Shimomura

## もう他のチームには負けない

ルをやるのが本当に楽し  
い。今の自分の全てと言って  
もいくらいです」と笑顔を  
見せる。

### 悔しさをバネに

同校のチーム目標は「簡単  
に負けないチーム」。伊緒里  
さんは「相手チームより1点  
多く取れば勝ち。点を取られ  
ても取り返し、相手チームを  
上回れるようにみんなが相手  
チームに食らい付いていく。  
それが常葉大菊川のソフト  
ボールです」と話す。

試合では、監督が選手のコ  
ンディションや相手チームの  
特徴からメンバーを考え、そ  
の都度違うメンバーで戦って  
いる。

伊緒里さんは、自身が試合  
に出場しないときでも、チー  
ムの雰囲気づくりやベンチか  
ら大きな声でメンバーを鼓舞  
するなどサポート面でも手を  
抜かない。「もう他のチーム  
に負けたくない。仲間と少し  
でも長くソフトボールがした  
い」。その気持が原動力  
となっている。

何に対してもひた向きに一  
生懸命取り組む彼女の姿は、  
周囲の人に応援する気持ちを  
湧き起こさせてくれる。